

「北海道グローバル戦略(仮称)」の策定に係る第2回有識者会議における意見等への対応(戦略案への反映)

資料3

素案イメージ項目	発言者	意見等	対応(戦略案への反映)	戦略案該当頁
全般	大津座長	・戦略の内容は、道民の方が読んできちんと理解できる内容にしてほしい。	簡潔な記述、図表の多用などにより、分かりやすくなるよう工夫	—
	小畑所長	・読んだ方が、「元気に取り組もう」といった、やる気を起こすようなメッセージ性を持ったものにしてほしい。	「本道が将来にわたり輝き続けていく」、「世界を舞台に活躍」等、道民の皆さんに策定趣旨が分かりやすく伝わるよう工夫	1 9 ほか
	栗山部長	・戦略策定自体の目的を明確にすることが大事である。 ・①目的、②指揮官(旗振り役)、③遂行主体、④遂行状況の確認、⑤戦術を見直す仕組みの5点を明確にすることが必要である。 ①目的は数値化が前提。数値化すると、縛りがきつくなるが、施策を推進する上で一定の数値目標化が必要 ②指揮官は道であるが、行政だけでできないこともあるので、道の意向を踏まえて動く民間経済団体の協力が必要 ③遂行主体は、行政と民間でやるべきことの整理が必要 ④政策評価は、素案イメージの「Ⅲ 施策の推進」にもあるが、外部の視点も必要 ⑤戦術の見直しについては、戦略を策定して発破を掛けるだけでなく、プロジェクトチームできちんと進捗管理を行うことが重要	①総合計画から関連指標8項目を記載 ②協力が得られるよう民間経済団体に対し個別に説明を実施 ③「取組主体」欄において役割分担を記載 ④政策評価は評価委員会において外部の意見を反映 ⑤プロジェクトチームにおいて効果的かつ効率的に事業推進を図るとともに、推進管理を実施予定	①17 ②— ③11, 13, 14 ④— ⑤16
	越前副会長	・現行の北海道国際化推進指針は、北海道総合計画の特定分野別計画に位置付けられているが、本戦略はどのような位置づけとなるのか。指針と同様に特定分野別計画となるのであれば、数値目標の設定なども必要になってくるのではないか。	戦略を特定分野別計画と位置付け、数値目標については、北海道総合計画の指標から関連指標として8項目を記載	17
現状	張社長	・「2 北海道の現状と、今、求められているもの」は、課題などをもう少し整理する必要がある。例えば、道内企業の海外進出状況、日本国内から道内に来る観光客数などのデータも必要。	「道内企業の海外進出拠点数」、「道内容・道外客数」のデータを追加	6
めざす姿	小畑所長	・めざす姿は、「世界がより身近となり」という客観的な表現よりも、世界を惹きつけるという意味で「世界をより身近に」という表現はどうか。	「世界をより身近に、世界を舞台に活躍」に修正	9
	小畑所長	・【国際貢献】にある「◆寒冷地技術など本道の強みを活かした技術交流」は「技術協力」とすべき。	「技術協力」に修正	8
展開方向Ⅰ	白石所長	・「(1)北海道ブランドの確立と戦略的活用」について、北海道ブランドは、他都府県と比較すると特にアジア地域では浸透しているので、ブランドイメージを毀損されないよう「維持・向上・管理」といった考えも盛り込んでどうか。	全世界で見た場合、北海道ブランドが確立しているとは言えず(本文P5「認知度」参照)、まだ知られていない国・地域ではブランドを確立する、知られているところは戦略的に使っていこうという趣旨で「確立」という表現を使用	5 11
	大津座長	・(1)【背景】の3つ目の◆に「北海道ブランドの確立と戦略的活用が必要」とあるが、北海道ブランドは既に一定程度確立しているので、それを維持・発展させていくという意味を含んだ文言の方が相応しいのではないか。	また、戦略的活用には維持・発展といった意味を包含	
	白石所長	・先日、米国の州知事が来日した際、彼らが強調していたのは「双方向」という言葉。彼らが日本を評価しているのは、例えば直接投資で言えば、日本からも米国に進出することで米国に貢献し、一方、米国企業も日本でビジネスを展開するという双方向の動き。「売り込む」という表現も良いが、我々が一人勝ちするという意味でなく、双方向など何か全体が恩恵を受けることを目指すという意味で、良い表現があれば検討してほしい。	展開方向Ⅰの「MICEや投資の誘致推進」や展開方向Ⅱの「人材・技術を活用した交流・協力の促進」等、双方向の動きを念頭に置いた取組について記載	11 12
	小畑所長	・例えば、大樹町の「宇宙のまちづくり」など、道内の様々な自治体が、地域ブランディングに取り組んでいる。このように、自分たちの足元を見て、良いところを発見・強みを分析し、ブランド化していくことが、グローバル化にもつながっていくと思う。	取組イメージに「関係者が一体となった地域ブランディングの展開」を記載	11

素案イメージ項目	発言者	意見等	対応(戦略案への反映)	戦略案該当頁
展開方向Ⅱ	小畑所長	・「(2) 人材・技術を活用した交流の促進」について、触れ合いや文化・スポーツであれば交流という表現でよいが、技術については移転に協力しているという要素が強いので、「交流・協力の促進」とした方がよい。札幌市など道内自治体等が行っている海外への技術移転や技術者派遣・研修員受入れなどは、協力であり、国際貢献である。	「(2) 人材・技術を活用した交流・協力の促進」に修正	12
	越前副会長	・(2)【方向性】の「◆海外との人材交流の一層の促進」の部分について、人口減少が進む北海道において、活力ある地域社会を維持していくためには、高度外国人材が道内で活躍できる環境を整えていくことが重要であり、方向性には「外国人材の呼び込みと活用」など、具体的な記述があった方が分かりやすいのではないかと。	「海外の優秀な人材の活用など海外との人材交流の一層の推進」に修正	12
展開方向Ⅲ	越前副会長	・展開方向Ⅲのタイトル中「内なるグローバル化」という言葉は、海外から人材、資本を受け入れて活用することや、そのための環境整備といったイメージであり、見出しと内容とがマッチしていないと思う。	展開方向Ⅲを「世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応」に修正	14
	大津座長	・「内なるグローバル化」という表現は聞いたことがなく、違和感がある。他の表現を検討してほしい。		
	張社長	・「(1) 海外からの影響力への対応力の強化」の【方向性】の中には、製造業も入れてほしい。 ・世界中の情報が瞬時につながり決済される時代となる中、今後、道内の製造業はどうなっていくのか、何で稼いでいくかといった分析が必要。	(1)を「世界を視野に入れた力強い地域経済の確立」に、方向性を「地域産業の付加価値の向上、ものづくり力の強化など」に修正	14
	張社長	・「(2) 多様なリスクへの的確な対応」について、日本の企業の良くない傾向として、仮定のリスクを考えすぎて物事が進まないということがある。仮定のものだけでなく、実際に起きた問題を分析して、リスクマネジメントをするというプロセスも必要。 ・リスクマネジメントは、海外展開の道を閉ざすものではなく、積極的に外に出て行くための手段であってほしい。	(2)方向性を「多角的な情報収集」、「迅速な共有」、「的確な活用」の3ステップによるリスクマネジメントの促進」に修正	14
その他	大津座長	・地域おこしとグローバルをつなぐキーワードはSDGs。	「策定趣旨」及び「その他参考」にSDGsとの関連を記載	1 17